

# NEWSLETTER

No. 15

岐阜大学国際交流室 1992年7月15日

## 国際交流室と交流活動を支える人々

国際交流室室長 堀内孝次

今年も本学のサマースクールに参加するため協定大学のルンド大学（スウェーデン）から留学生達がやってきました。開校期間は8週間（6月8日～8月2日）です。彼らの目はまるで幼子のよう  
に好奇心に満ち溢れ、未知の国、日本と接することの喜びに、感動の毎日を送っているようです。来日  
前の2年間で学んだ日本語を上手に使っています。この岐阜での滞在経験が彼らの将来にとっていかに  
強力なインパクトを与えているかは、彼らの先輩達が留学後帰国した後、再び本学に勉学に戻ってくる  
例の多いことから容易に推察されます。もちろん岐阜大学からも毎年、協定大学へ留学生を派遣して  
います。国際交流室としてもかなりのエネルギーをこの事業に投入しているのです。しかし、このよ  
うな実績の上で上がっている協定大学間の交流活動についても意外と学内で認識されていないのでは  
ないでしょうか。各学部から室員として選出された教官が自分の貴重な時間を割いて岐阜大学の  
国際交流活動に必死になって努力している姿をみなさんは御存知ですか。今回、広報担当室員  
から本紙『ニューズレター』への寄稿を依頼された時、投稿内容についてはこれまでの交流室の歩  
みと室員の奮闘努力の成果を広く伝えたいという思いがあつて、迷わずこの点を題材にすることに  
しました。それは1984年に国際交流室が開設され、その翌年4月から、私自身室員として連続7年  
間という学内でも最も長く交流室活動に直接関わってきた者の、いわば責任のようなものがあつた  
からです。この紙面を通じて今日までの交流室の変遷と活動内容、さらには大学の国際化志向にお  
ける国際交流室の役割とその意義を改めて学内の教職員や学生諸君に伝えたいと思うので  
す。そして願わくは一人でも多くの方々に岐阜大学の国際交流の現状を知って頂き、



交流事業を自分自身の身近な関心事として把握願うとともに、今後の国際交流室の積極的な活用とご支援を頂ければ幸いです。

1981年6月に国際化の気運に乗じて国際交流推進のため国際交流委員会が学内に発足し、次いで1984年9月に諸外国の大学との学術協定、外国人研究者・留学生の学内受け入れのための施策を講じるため国際交流室が開設されたのです。開設当初、交流室の運営資金は国際交流に理解のある企業や篤志家からの奨学寄付金のみ依存していました。これらの支援なしには国際交流活動は成り立たなかったし、この点は現在も同じです。この時期、留学生に対して日本語・日本文化教育を行うには学内的にはまだ充分な対応ができておらず、このためインストラクターの人数は17人でした。

初代室長は藤掛庄市先生（教育学部、1984年9月～1988年3月）でした。当然のことながら、この時、交流室運営はまだ形そのものが成熟しておらず、いわば無から有を生み出そうとする国際交流黎明の時代でした。このため室員自身が各行事にいかに対処すべきか模索していた時期でもありました。しかし、その後、年を経るにつれて室長の精力的な指導のもと、年間の事業は着実に増え、行事化してゆきました。日本語教育の他に留学生と本学教職員・学生を対象とした国際理解教育の集い、留学生のための歓送迎会、学内学生クラブとの協賛による日本語スピーチ大会や国際運動会、さらには日本語インストラクターと関係教官との懇談会などの諸事業でした。日本語教育の強化には3人の非常勤講師が認められました。1986年には特に、岐阜大学でもサマースクールが開校され協定大学のアラスカ大学・フェアバンクス校からの学生が参加し、交流室の活動に室員自体の国際化意識が高められたのを覚えています。しかし、この段階では交流室運営は責任の多くを室長に依存しており、室員活動は受動的感が強かったように思います。この年の留学生の中には相当高齢な社会人も数人含まれていました。学生達は日本語を殆ど話せなかったので交流手段は英語でした。それでもこのような経過を通じて1987年までには今日の国際交流室活動の基礎が作られたと言えるでしょう。換言すると今日の交流室活動における室としての核が形成された時期だったのです。

二代目室長は藤井 洋先生（工学部、1988年4月～1992年3月）でした。この4年間には既に形成された核を基本に交流室として運営に関するハード的な部分の確立に力が注がれました。即ち、鈴木正敏国際交流委員会委員長との綿密な協力体制のもとで、室員全員の役割分担を明確化することにより、交流室の活動体制を室員全体の責任分担制により年間行事が遂行されてゆきました。さらに言語学専門教官の室員加入により、交流活動の一層の充実が図られました。その結果、室員一人一人の担当分野への責任認識が高まり、室員会議も時間をかけた熱心な論議が多くなりました。留学生が日本文化に触れられる環境づくりを設定するためにホームステイにも力を入れました。このホームステイ・ファミリーと留学生との間には気苦勞の多いこともありましたが、交流室とホームステイ・ファミリーとのつながりを強く、太くしたのも室員達の大いなる努力の結果でした。この間、本学の留学生数は増加の一途を辿り、1988年に90人であったものが1992年3月時点で145人を超え、協定大学数も11大学（アメリカ合衆国2、スウェーデン1、中国6、ブラジル1、韓国1）

となったのです。一方、国際交流の活発化とともに交流活動経費も増大し、1989年から全学的な支援のもとで校費としての留学生経費の1/5を交流室事業に使わせて頂けることとなり、これと企業等からの奨学寄附金からなる収入で交流活動が運営されることになりました。日本語教育の非常勤講師も5人に強化され、講義もボランティアに頼らず自前での指導が可能となったのです。しかし、研究者交流も含めた本格的な交流活動を目指している国際交流基金の設立にはまだ程遠いのが実情で、拡大しつつある今後の交流事業を考えると早急な資金作りが必要となってきています。

これまでの交流室の歴史のなかにはうまく行かなかったこともありましたが。アラスカ大学・フェアバンクス校とのサマースクール協定解消はその一つでしょう。一回の交流の後、先方から本学への来学希望者が無いことから取りやめたいというのがその理由でした。当時、まだこちらの経験も浅く、プログラムの内容も彼らの期待と合致していなかったのかも知れません。このことも現在のプログラム体制確立のための貴重な経験となったように思われます。他方、本学から協定大学への夏季短期派遣留学生の中には全く英語が話せない者もいて、この点を厳しく先方から指摘されたことも派遣する側の責任を考えさせられたものです。全て“経験は宝なり”です。サマースクールで来学している留学生が交通事故に遭って、この対応に当たった関係者達の献身的な働きも忘れられません。しかしこのような事故はもうこりこりです。

そして三代目室長の任を私が引き継ぎました。責任の重大さをどのように受けとるべきか考えつつ、今年の4月1日より2年間、国際交流室長を務めることになりました。各学部から選出された国際交流室員2名の任期は2年で、交流室が設立されて以来、縁あって農学部からの1名として室員を長く努めてきました。これまでの強力なリーダーシップのあった室長達と比べるとごく平凡な一教官的存在だと自認していますが、責任感と根性と外国人に少し慣れ親しんでいること、それに現在『岐阜県青年海外協力隊を育てる会』のボランティア活動に係わっており、国際交流に関心のあることが無謀にも室長を引き受ける気持ちにさせてしまったようです。就任以来、3ヵ月が経ちました。その間、藤井先生が室長当時、毎日、休みなく交流室に詰めておられた理由が分かってきたような気がしています。学外から国際交流に係わる諸事への対応も含め、交流室業務のなんと雑多で多忙なことか。これら驚異的な仕事量への対処は歴代の“交流室事務局”としての有能な二名の女性職員によって無難に能率よく処理されてきています。留学生達も歴代から数えて5代目と6代目に当たる彼女らを随分頼りにしているようです。ところが今年の4月から突然、事務機構の改革により学生部学生課国際交流係に配属となったのです。仕事の内容は従来通り交流室事務とのことでした。しかし、最近、定員削減による止むをえない事情のため国際交流係以外の仕事までしなければならぬことになりました。交流室活動そのものが年々多忙を極めている現在、われわれにもこのことが響いて交流室員への負担が一層重くのしかかってくるのではないかと不安になります。既に、核とハード部分が構築された国際交流室、今後は交流活動に関わるソフト部分の整備が新たな課題だと考えています。

今年も室員達（総員13名）が休日や貴重な時間を返上してサマースクールの交換留学生が宿泊する古びれた学外研修施設の一室一室の床掃除と窓ガラス拭き、シャワーや電灯のチェック、借用冷蔵庫と通学自転車のトラック運搬に汗を流しました。国際交流室の行事はこのサマースクール開校以外に、国際理解教育の集いをはじめ、各種レクリエーションの実施や広報活動、外国語講座（ポルトガル語、中国語、英語）開講の調整、各種懇談会や歓送迎会の開催など多様な行事が目白押しです。そこでこの機会にこれまで述べてきた室員や関係事務官の不断の努力が報われるよう再度これら諸行事へ皆さんの積極的な参加を期待したいのです。行事は全てオープンされ学内にもしくは交流室に掲示されています。例えば「国際理解教育の集い」は年3回開催され、本学で勉学している各国の留学生を講師に招いて色々な話題について国際理解を深めるのが目的です。講演後日本語でのディスカッション交流がなされるので是非多くの方々の参加が望まれます。今年で岐阜大学の国際交流はもう8年目に入っています。そして学内の皆さんの一人でも多くの方に国際交流意識が芽生え、高められることがわれわれ国際交流室員の喜びなのです。

今朝もいろいろな音や映像が交流室に飛び込んできます。…マリアの自転車がパンクしたようだ。修理しないと長良まで帰れないという。警察学校から国際交流を实践させるため留学生派遣の依頼が来ている。二日後の室員会の資料はできたか。FAXが流れる。NKU（ノーザンケンタッキー大学）からの返事か、それともSDSU（サンディエゴ州立大学）からの問い合わせか。サマースクールエクスカージョン京都、奈良にさらに数名の参加希望の追加があった。担当の先生に連絡しなくては。ニューズレターの原稿の催促はどうなっているのか。ルンド大学への派遣留学生の資料は整ったか。そろそろレクリエーションの日程も検討せねば。隣室から日本語教育の授業が聞こえてくる。……国際交流室は今日も多忙な一日になりそうです。

## '92 岐阜大学サマースクール スタート!!

6月8日から毎年恒例のサマースクールがスタートしました。今年で5年目を迎えたサマースクールもすっかり軌道にのり、内容とともに、参加している学生の満足度も年を追うごとに高まっているようです。彼らに岐阜の印象など聞いてみました。



## マリア・サレーン



六月の五日私はスウェーデンから名古屋空港へ着きました。今回日本へ来るのは二回目ですが、岐阜市は初めてです。また日本に勉強しに来られてうれしいです。現在泊まっている寮の所は田舎ですが、留学生の友達もたくさんいるし時々ホームステイで日本人の家族と一緒に泊まるのでこの生活はいつも楽しいと思います。それによく岐阜の町へ遊びに行ったり、大学の先生と見学したりします。初めて岐阜市へ来た時、色々な印象がありました。景色がとってもいいし田圃

がおどろく程たくさんあるし、天気思ったより涼しいので安心しました。今まで一番面白かったのは、藤井先生とのヨットセーリングです。最初聞いた話によると、毎年かなり大変ですが結局はとってもよかったと思っています。しかし、「差羽」というヨットには食べ物足りなかったようですが、私達のヨットではおいしい物を食べたり海で泳いだり楽しくやったりしました。

大学の寮は山の上にあるので昔の王様の城のような所に今住んでいます。さびしい時よくテレビを見えています。特に日本のドラマやコマーシャルはおもしろいと思います。まだ日本のニュース、例えば経済や政治のことについてははっきり分かりませんが、日本語をもう少し覚えればいいと思っています。テレビで政治のことを見ている時政治の女の人は本当に国と比べて少ないと思ってしまいました。

日本の女性は最近強くなってきていると言われていますが、実はどうでしょうか。私はいま日本で一番に総理大臣になる女の人を待っています。少しおどろいたことは日本人の男の人は料理が上手なのに家では普通全然しないようです。料理と言えば和食はとっても好きなのでいつも寮で皆で作ります。あるいは外で食べる時はいつも「日本の料理」です。

岐阜大学で時間がはやく過ぎますから、ここへ来たばかりのような気がしますが、もう一か月位がたちました。8月スウェーデンに帰るのですが、機会があったらまた岐阜へ来たいと思っています。岐阜大学の先生はとっても優しいし、たくさんのことを教えてくださって感謝します。

今は日本語が大分わかるようになったので日本で生活するのがもっと面白くなってきたし、日本語の勉強を続けたいです。これからがんばろうと思っています。

「ローマは一日にして成らず」

## ヘンリック・ホーベンダール



「ヨデライイホー」(インディアンのかげ声) うれしい。 Lund 大学の夏休みがやっと始まって、岐阜大学の日本語のサマー・スクールに入るために岐阜に来た。ここで沢山の優しい人々に会って、色々な楽しい経験をした。

日本語の教官は上手で、すてきなプロポーションなので、授業中は目を開けてい易い。男の先生はおいしい料理が作られると思っている。朝田先生の奥さんは御存知かな……国際交流クラブの学生は心が広い。一

緒に楽しい時間をすごして、国際的な食事を作ってくれた。藤井先生のヨット・セーリングは忘れられない週末だった。僕達の寮はちょっと遅くても、屋上はパーティをするのに役にたつ。毎日自転車を通うのは大変だがいい運動になる。運動なら、長良川のほうが面白い。流れにのって泳ぐのも水中へもぐるのも楽しい。デートの時も川の所がいい。車がなかったら、金華山の展望台まで行くのは不便。カラオケは日本の発明の中で一番楽しいと思う。そのほか、やはりビールの自動販売機も便利な発明品。ある晩、びんビールを全部買ってしまおうと思ったのに、まだ買いきれなかった。又、がんばります！カラオケで例えば「おどるポンポコリン」を歌った。「ちびまる子ちゃん」が好きで、よくテレビで見る。日本のテレビは面白いと思う。コマーシャルの中では「ごきぶりホイホイ」や「アサヒドーカメラ」のが（隣の奥さん、撮る！）一番いいと思う。運よく、寮に今テレビを二台持っている。

もうホームステイを一回した。御家族は大垣の「天近」という料理店グループの御主人。あんなに美しくて、おいしい食べ物はまだ食べたことはない。お子さんは長刀をしているいい女の子だ。

日本の生活によくなれたと思う。ここでの滞在はまだ楽しい。皆さんありがとうございます。

### ビギッタ・カールソン



今日で三週間日本にいる事になります。日本はスウェーデンと比べると、予期していたことと違いません。日本の生活になれる事は簡単でした。でもどこにでも面白くて、読めない漢字があります。ところで、他の面白い事があります。日本の車の色はほとんどいつも白いです。なぜですか。答えが全然わかりません。

岐阜大学は、いい所だと思います。先生は皆さんが優しいです。問題があれば、国際交流室の人はいつも力になってくれます。それは日本的だと思います。日本人に道を聞く時に多分行きたい所に連れて行ってしてくれます。そんな事はスウェーデンにありません。

日本語を習う事は大変です。クラスが多いし、先生は上手だし、一番大切な事はホームステイです。ホームステイの時に普通の言葉を習いますが、よく話す可能性もあります。一週間ホームステイをするのを楽しみにしています。

### ビョーン・モラー

名古屋へ飛行機で来ました。飛行機はとても速くて便利ですが、アエロフロートのスチュワーデスはあまりきれいじゃなくてちょっとはきそうになりました。天気は思ったよりいいです。今、雨が降らなくてあまりむしあつくありません。でも、もうすぐ梅雨にはいると聞きました。住んでいる学生寮は田舎にありますから、時々寂しいですが、自然はきれいで、カエルが多いです。また、寮は古いですが、ごきぶりはまだ多くありません。日本はとてもおもしろいです。色々な経験をしました。たとえば、カラオケボックスへうたいに行きました。とてもおもしろかったです。でも、知っているうたはすくないですから、日本のうたを習いたいです。スウェーデンにはまだカ



ラオケボックスがありません。それから、長良川で泳ぎました。おもしろかったですが、危なかったです。川はあまり深くありませんが、とにかく水にとびこみました。頭が底にあたって、今頭が痛い。そして、川岸で自動車の長距離走をしました。危なかったですが、ずいぶんおもしろかったです。まだ野球をしたことがありませんが、してみたいです。おもしろそうです。ヨットセーリングもしました。しの島と神島へ行きました。すばらしかったです。しの島で死んでいないえびを食べました。日本料理は大好きな食べ物が多いです。でも、時々その食べ物がいやになります。その時、ピザやハンバーガーなどを食べたいです。日本のビールが大好きです。種類は多いですけど、味は割合同じだと思えます。キリンの一番とアサヒのワイルドビートが一番おいしいです。日本酒も大好きです。つめたい方がいいと思えます。また、日本の女の人はたびたびすごいきれいです。危ない！でも、スウェーデンにガールフレンドがいますから、危ないデートができません。残念…日本にはおかしいこともあります。たとえば、大学生は皆さん車を持っています。そして、どこでも自動販売機がたくさんあります。おどろきました！その上、カエルが多いのに、日本人はカエルを食べません。フランス人なら、カエルを食べ過ぎるはず。毎日日本語の授業があります。それに、先生達はとても優しいですから、授業が楽しいです。よくおせじをいった方がいいと思えます。まだ困った問題が全然ありません。ここにいてうれしいです。この八週間のサマースクールの後、東京へ行くつもりです。私の祖父と祖母の家を訪ねるつもりです。楽しみにしています。でも、東京はひどくこんでいると聞きました。とにかく、おもしろくなると思えます。十二月ごろスウェーデンへ帰ろうと思えます。でも、すぐ日本へまた来るはず。光陰矢のごとし。ところで、私の名前は漫画の音響効果ですか？

### カロリーナ・ゴランソン



6月4日に日本へ来ました。最初で最後のエアロポートに乗りました。日本は初めてです。

天気は私が思ったほど暑くありません。よかったです。日本にはどこにでも漢字とひらがなとカタカナを使っていますが、日本へ来る前に私はこの事実をはっきり理解していませんでした。日本料理は思ったよりおいしくて好きです。特にやきとりとやきそば！

山と川がたくさんあるので、私は岐阜県の自然が好きです。岐阜大学のキャンパスはずいぶんいい所です。

私は日本語クラスは面白いんですけど、時々ちょっと速いと思えます。

私はスウェーデンで剣道をします。もちろん日本にいる時も剣道をしたいです。岐阜大学でちょっと剣道の練習をしました。岐阜大学の道場は立派な道場だと思っています。練習は面白かったです。

先週の週末はホームステイをしました。日本の生活を経験しました。八嶋先生の御家族は良かったです。私は日本風の部屋で眠るのが好きです。

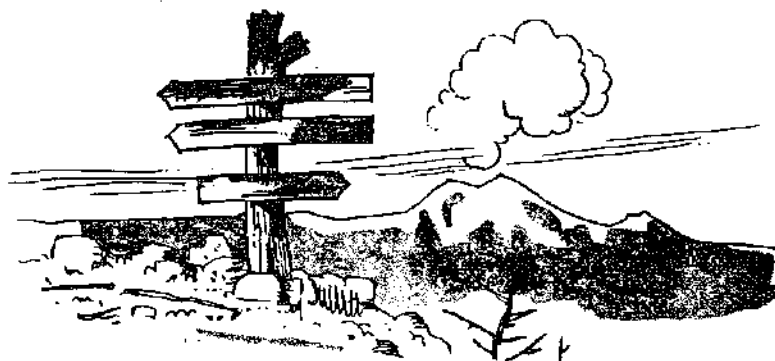
どうもありがとうございました。

かれらは7月31日まで岐阜に滞在します。大学のキャンパスで、あるいは街で彼らを見かけたら、ぜひ声をかけてみてください。

1992年度 ルンド大学からの夏季短期留学の日程〈サマースクール〉

月	火	水	木	金	土	日
6/8 8週間コース ガイダンス	6/9 日本語クラス	6/10 日本語クラス 委員会主催の歓迎会	6/11 日本語クラス	6/12 日本語クラス	6/13 Optional tour Yacht Sailing	6/14
6/15 日本語クラス	6/16 日本語クラス	6/17 日本語クラス	6/18 日本語クラス	6/19 日本語クラス	6/20	6/21
6/22 日本語クラス	6/23 日本語クラス	6/24 日本語クラス	6/25 日本語クラス	6/26 日本語クラス	6/27 *	6/28 *
6/29 日本語クラス	6/30 日本語クラス	7/1 日本語クラス	7/2 日本語クラス	7/3 日本語クラス	7/4	7/5
7/6 イクスカーション ガイダンス *	7/7 日本事情について 《三浦陽一》 *	7/8 トヨタ自動車 研修 *	7/9 日本の産業について 《合田昭二》 *	7/10 名古屋城・徳川美術館 サッポロビール研修 *	7/11 *	7/12 *
7/13 仏像と仏教について 《小澤克彦》 京都・奈良説明 《松浦晃次》	7/14 飛騨高山研修 高山 泊	7/15 下呂 泊	7/16	7/17 岐阜県の伝統工芸について 泉立博物館 《学芸員・水野直樹》 万葉館見学 《伊佐地勉可》	7/18 *	7/19 *
7/20 能と狂言 《西澤康夫》	7/21 京都・奈良研修 京都 泊	7/22 京都 泊	7/23	7/24 茶道入門 《伊東久之》 岐阜公園内「茶室」	7/25	7/26
7/27 日本語クラス	7/28 日本語クラス	7/29 日本語クラス	7/30 日本語クラス	7/31 日本語クラス 交流室主催の 歓送会	8/1	8/2

\*ホームステイ





## 『国際理解教育の集い』

去る6月30日に平成4年度第1回「国際理解教育の集い」が行われました。今回はアジャント・ヘラスさん（スリランカ）に“将来スリランカへ行きます。今日、インドの涙について学びましょう”というタイトルで、またピタック・レクラさん（タイ）には“タイのスポーツについて”というタイトルでそれぞれお話していただきました。

アジャントさんは、国名の由来、文化、教育、そして有名なセイロンティーに至るまで実にいろいろな面からスリランカを紹介してくれました。アジャントさんの奥様も、スリランカの伝統的な衣装であるサリーを着て参加してくださいました。

自分自身、3ヵ月だけ僧侶としての修業経験があるというピタックさんは専門が体育ということもあって、タイのスポーツやゲームなどを実演を交えながら紹介してくれました。

お二人ともスライドはもちろん自国の音楽テープを用意したり、またアジャントさんはサリー、ピタックさんはサッカーチームのユニフォームと衣装にも趣向を凝らして、相互の理解を深めようという熱意がうかがわれました。

この「国際理解教育の集い」は年に3回行われ、次回は10月頃の予定です。皆さんの参加をお待ちしています。尚、詳しい日程及び内容については国際交流室（Tel30-1111 内線2380）までお尋ねください。



◀アジャント・ヘラスさん  
(スリランカ)



▶ピタック・レクラさん  
(タイ)



1992年度 岐阜大学サマースクール実施要項

☆サマースクール事務局

岐阜大学交際交流室

室長

堀内 孝次

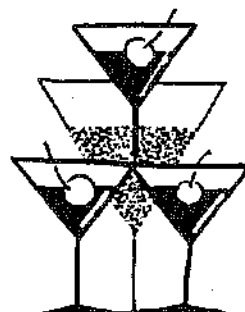
学生部学生課

専門職員 塚本 勇

国際交流係 森瀬純子 後藤 桂

留学生係長 黒田広子

留学生係員 森田安夫



☆部門責任者氏名

◇サマースクール実施総括責任者

中須賀 德行(教養部)

◇ホームステイ担当責任者

朝田 健(教育学部)

◇サマースクール宿舎責任者

藤田 一郎(工学部)

◇日本語教育責任者

廣田 則夫(教育学部)

◇日本事情プログラム責任者

坂本 秀生(工学部)

◇エクスカージョン責任者

松浦 晃次(工学部)

◇会計責任者

鈴木 文昭(農学部)

◇サマースクール歓送迎会責任者

瀬戸崎 康子(医療技術短期大学部)

◎ 編集後記

ランド大学の5人の学生達はのびのびと日本の生活を楽しんでいるようです。サマースクールは交流室の大きな行事の一つですが、実は学内外の多くの人達の活動で成り立っています。次号からはなかなか表には出ない岐阜大学の国際交流を支える人々の生の声を紹介する予定です。御期待下さい。ニューズレターに対する御意見・御感想などを交流室までお寄せ下さい。

M

発行 岐阜大学国際交流室

NEWSLETTER 係

〒501-11 岐阜市柳戸1-1

☎(0582) 30-1111

内線2380/2381

FAX 0582-30-1108